

わたしとあなたをつなぐ～エルサルバドル編～

所属	岐阜県大垣市立上石津中学校	実践者	野村 佳世
対象	中学1年生	時間数	4時間
場所	1年生各教室	実践教科	社会科・地理科
ねらい	日本とエルサルバドルの共通点を知り、エルサルバドルに興味をもつ。また、エルサルバドルの抱える問題について考え、よりよい生活を築くための方法を考えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1時間目	(1)アイスブレイキング…5人/1グループで「わたしの好きな観光地」を発表する。【エルサルバドルと出会う】 (2)今年、わたしが訪れた国はどこか、写真を見て考える。 ・衣食住の写真 ・山の風景 ・現地の学校 ・人々 (3)エルサルバドルの基本情報を知る。 ・国の正式名称・人口・地形・気候・宗教・通貨・言語・歴史	[1時間目] ・訪れたことのある場所、訪れたい場所をあげる。 ・写真を見ながら「おもしろいと思うところ」を書き出す。 ・世界地図(地形) ・民族衣装
	2時間目	(1)アイスブレイキング…エルサルバドルのコーヒーを試飲してみる。【エルサルバドルの産業を知る】 (2)エルサルバドルのコーヒー産業の実態を知る。 ・コーヒー農家についての資料を読む。 (3)エルサルバドルの藍染産業の実態を知る。 ・日本とのつながりや歴史に関わる資料を読む。	[2時間目] ・「もっと知りたいと思うこと」を書き出す。 ・「日本と似ているところ」を書き出す。 ・コーヒー産業の写真とグラフ ・藍染体験の写真
	3時間目	(1)アイスブレイキング…エルサルバドルの映画を少し観る。 【エルサルバドルの少し困った社会問題を考える】 (2)エルサルバドルの国にとって問題だと思うことを写真を観て、書き出す。 ・学校が全ての地域にない・ギャング団・水問題・ゴミ問題 等 ・なぜ、問題が起こってしまうのか考える。 (3)このまま問題が続くとどうなるのか考える。 ・平和ではない ・戦争になる ・子どもや弱い立場の人の生活が苦しい。	[3時間目] ・映画「Sin Nombre」 ・「日本と違うところ」を書き出す。 ・「どんな考えも間違いでない」ことを伝える。
	4時間目	(1)アイスブレイキング…わたしの「幸せ“なときはどんなとき？！」を発表する。【日本とエルサルバドルの幸せを願う】 (2)エルサルバドルで出会った人々のインタビューからエルサルバドルの人々の「幸せレーダーチャート」を作る。 (3)日本にいる自分の「幸せレーダーチャート」を作る。 (4)2つのレーダーチャートを比較して気付くことを発表する。 (5)エルサルバドルの人々の生活を知り、今後自分の生活の中で実践したいことはどんなことか、発表する。	・ブレインストーミング ・フロンページ [4時間目] ・「2つを比較して気付いたこと」を書き出す。 ・「わたしにできること」を書き出す。 ・レーダーチャート
成果	エルサルバドルの場所も知らない生徒たちだったが、写真、コーヒーの試飲や民族衣装の試着を行うことで、とても楽しく学ぶことができた。また、特にレーダーチャートは初めて行うことで、「おもしろい！」と言いながら、気付くことをどんどん書くことができた。エルサルバドルと日本の共通点を知ること、両国が幸せな生活おくるためには何が必要か、生徒一人一人が理想の社会を願って授業に臨むことができた。		
課題	エルサルバドルの産業については、まだまだ視覚的資料(生産額・輸出量等のグラフ)が少ないため、まとめを行うことが難しかった。グラフ資料など、今後も調査をする必要がある。		
備考	毎回の授業には、アイスブレイキングを入れることは有効であった。今日は何について「学ぶ」のかを提示することで、生徒の学ぶ意欲が高まった。また、仲間と考える時間が多くあると、発言に自信が持てるので、仲間の意見を聞く時間も十分に取るとよりよい学びになる。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「エルサルバドルと出会う」

1 子どもの活動の流れ

- ① 自分の好きな観光地について話す。
- ② 写真を見て、どこの国かを想像する。
- ③ エルサルバドルの衣装を着てみる。
- ④ エルサルバドルの基本的情報を知る。

この時限のねらい

エルサルバドルに関わる写真を通して、どんな国なのかを想像し、エルサルバドルに興味をもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 中学1年生では、世界の国々についての学習をしているため、新しい国について学ぶことに大変興味を示した。今まで学んだ知識を生かして、地図帳から国を当てようとする努力がみられた。街の様子からアフリカ州やアジア州を想像する生徒が多かった。
- ◇ どこの国かを考えるとき、自由な発言ができた。また、民族衣装は、自ら「着てみたい」と言う生徒が多く、いつもより積極的な授業参加がみられた。試着しない生徒も生地を触ったり、「かわいい」と言ったり、興味を示していた。男子も男子用のものを試着した。民族衣装を用いることで、エルサルバドルをぐっと身近に考えることができた。
- ◇ 「1日の生活の記録」には、感想を書く生徒もいた。

エルサルバドルの衣装を着て、とてもきれいなドレスで驚いた。エルサルバドルの衣装が着られるのは貴重な体験なので、よい思い出になった。他の外国の衣装も着てみたいと思いました。楽しい授業で社会が好きになりました。



3 使用した教材

- <教材1> エルサルバドルで撮影した写真
- <教材2> 世界地図(地形版)
- <教材3> 民族衣装

2 時限目「エルサルバドルの産業を知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドルのコーヒーを試飲する。ププサについて知る。
- ② エルサルバドルのコーヒー産業、藍染産業の資料を読み取る。
- ③ 日本とエルサルバドルの共通点を見つける。

この時限のねらい

エルサルバドルの産業の読み取りを通して、日本とエルサルバドルの共通点を見つけることができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ コーヒーは、中学生に飲めるのか、心配だったが、ほぼ全員がエルサルバドルのコーヒーを試飲した。しかし、コーヒーを普段飲まない生徒が多く、コーヒーの味や違いはわからないので、感想を求めにくかった。それでも、「においがとてもいい」、「にが味がある」、「少しあじは薄めかも」という発言があった。
- ◇ コーヒー産業において、資料の中で、コーヒー産業はエルサルバドルの人々にとって、貴重な収入源であることを知るとともに、コーヒー農家の抱える問題の現状を知ることができた。また、その現状は、開発国による無駄なエネルギー使用や環境問題であることを追究することができた。
- ◇ 「ノートまとめ」には、「自分の生活を見直すことで、環境問題を解決でき、エルサルバドルのコーヒー農園を助けることができると思う」と書く生徒がいた。日本からコーヒー農園を支える方法を考えることができた。
- ◇ 藍染産業において、小学校で、染物を体験した生徒がおり、1枚の作品を作り上げるための苦労や願いを自分の体験から語るすることができた。



3 使用した教材

- <教材1> エルサルバドルのコーヒー
- <教材2> エルサルバドルのコーヒー産業、藍染産業のグラフ、産業に関わる人々の願い
- <教材3> コーヒー農園、藍染体験の写真

3 時限目「エルサルバドルの少し困った社会問題」

1 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドルの映画を観る。
- ② エルサルバドルにとって問題だと思うことを写真から読み取り、「負の連鎖カード」活動をする。
- ③ このまま問題が解決されないとどんな社会になってしまうのか考える。

この時限のねらい

エルサルバドルの社会的問題の連鎖を考えるを通して、問題はなぜ起こってしまうのかを考えることができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ エルサルバドルは治安が悪いということを知ると共に、そこに生きている人々の生きざまを知り、貧しい生活の中で、生きることの大切さに共感できる生徒がいた。
- ◇ 男子生徒は、ギャング団について、多くの質問をした。「教育が十分に行きとどかないことや国への不安からギャング団に入って、自分を守ろうとしているのかもしれない」という発言をした生徒もいた。
- ◇ 人権の学習を学級で行っていることもあり、人権の観点から、「人として・・・」、「相手のことを考えると・・・」という発言ができた。
- ◇ 負の連鎖カードを用いてのグループワークでは、グループで話し合いをしながら進めることができた。負の連鎖は繰り返され、それはサークル状になることに気付くことができた。教員が「〇〇のカードの終わりは？」と質問すると、サークル状になることに気付くグループもあった。
- ◇ 負の連鎖をどこかで断ち切らない限り、永遠に悲しい生活が待っていることを理解することができた。これは、エルサルバドルだけの問題ではなく、貧困国で起こり、実は日本でも起こりうることを理解できた。



3 使用した教材

- <教材1> エルサルバドルの映画
- <教材2> 負の連鎖カード

4 時限目「エルサルバドルと日本の幸せを願おう」

1 子どもの活動の流れ

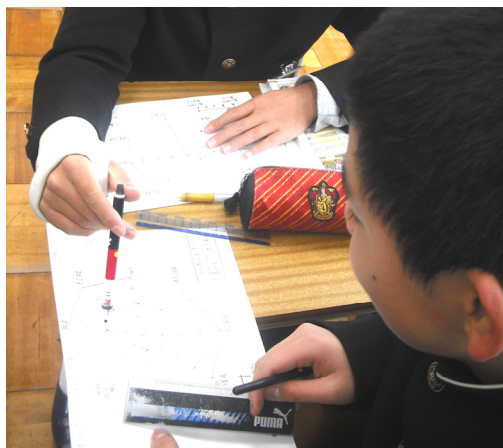
- ① 自分が幸せだと思う瞬間について書き出す。
- ② 日本に生活する自分の幸せレーダーチャートを作る。
- ③ エルサルバドルの人々のインタビューからエルサルバドルの人々の幸せレーダーチャートを作る。
- ④ 2つのレーダーチャートを比較して、気付くことを発表する。
- ⑤ エルサルバドルの学習を振り返り、今後自分の生活に生かせることは何か考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 幸せのレーダーチャートの作成では、自分(日本)の生活とエルサルバドルの人々の生活を比較すると、日本の方がチャートの面積が大きく、日本の生活が豊かであることが実感できた。レーダーチャートは、初めて行う作業であり、楽しく行うことができた。
- ◇ レーダーチャートでは、自分の生活については、素早く書くことができた。インタビューの表から、エルサルバドルの人々が大切にしているものを参考に、チャートを完成させることができた。
- ◇ 幸せのレーダーチャートには正解はないと伝えることで、自分なりに考えるレーダーチャートを完成させることができた。グループ交流のときには、自分がなぜそのレーダーチャートにしたのかを仲間に伝えることができ、さまざまな意見の中で自分の考えをもつことができた。
- ◇ 幸せのレーダーチャートを作成した後のまとめには、多くの気付きをノートに書くことができた。「殺人率の多い国であるエルサルバドルでは、安心して暮らすことも難しいけれど、家族を最も大切にしている、エルサルバドルの人々の優しさが伝わってきた。」「私たち、日本人にとっては、家族と過ごす時間は当たり前のことで、いつも一緒にいると思っている。だからこそ家族を愛おしく思う事がすくない気がする。エルサルバドルの人々のように家族が人生の中で最も大切だと言えることを見習いたい。」「家族の愛は、何よりも強く、安心できるものなのだと改めて思った。」という感想があった。

この時限のねらい

日本とエルサルバドルの幸せのレーダーチャートを作成することを通して、自分の生活を振り返り、遠い国のエルサルバドルの人も日本に住む自分もみんなが幸せであるためにはどうしたらよいか考えることができる。



3 使用した教材

- <教材1> エルサルバドルの人々のインタビュー(大切なもの・将来の夢・エルサルバドルの自慢)
- <教材2> 幸せのレーダーチャート

■ 全体を通して

1 授業の様子



<エルサルバドルのパワーポイント(エルサルバドルの負の連鎖)>



<エルサルバドルの民族衣装体験>



<負の連鎖をグループで考える >



<幸せリーダーチャート作りの交流>

2 参考文献・資料

- 1) 『貧困と開発—豊かさへのエンパワーメント』 2005
- 2) 映画 『Sin Nombre』 2009